

① 安全に関する 年間行事



総合訓練

2012年 10月27日
2012年 11月8日

平成5年のニュートラム事故を教訓とし、不測の事態に迅速に対応できる体制を確立し、各部合同で消防及び警察等の協力を得て、異常時におけるお客さまの安全を守ることを目的に訓練を実施します。

2012年 7月19日
2012年 11月15日

建築安全大会

請負工事及び委託作業における災害や事故等を未然防止のため、受注者等とともに安全への取り組みを行っています。



2012

2013

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	3月	
春の全国交通安全運動 安全講演会 地下鉄工事安全週間	サービス向上運動	触車事故防止週間 感電事故防止週間	地下鉄・ニュートラム安全運転推進運動 全国安全週間 建築安全大会	運輸安全マネジメント評価	秋の全国交通安全運動 触車事故防止週間	地下鉄・ニュートラム安全運行強化週間 総合訓練（避難誘導編）	全国労働衛生週間 車内案内放送コンテスト 安全講演会及び安全に関する発表会 車両火災予防運動 保線業務改善発表会 建築安全大会	総合訓練（施設・車両復旧編） 接客発表会 車内案内放送コンテスト 安全講演会及び安全に関する発表会	年末年始の輸送等に関する安全総点検 業務研究発表会	年末年始の輸送等に関する安全総点検	運転技能競技会 車両火災予防運動 電気・機械業務研究発表会 触車事故防止週間

車内案内放送コンテスト

基本放送や異常時の放送等、車内案内をテーマに日頃培った技術を披露するコンテストを開催しています。放送内容はもちろんのこと、聞き取りやすさや滑舌の良さなども含め、「お客さまならどう評価するか」といった点に重点を置いており、優良乗務員を称賛することで士気の高揚及び案内業務の意識向上を目指します。

2012年 11月2日



運転技能競技会

基本動作の重要性を再認識し、日常業務における運転技術の技量及び知識の向上を目的として競技会を開催しています。乗務所ごとに実車において運転操作及び基本動作の試験による選抜を行い、上位成績者が選手権大会に出場し運転知識を競います。技能と知識を兼ね備えた優良乗務員を称賛することで、士気の高揚及び運転技能の向上を目指します。

2013年 3月27日



② 職員の研修

平成18年の運輸安全一括法が制定されて以降、安全管理規程及び安全方針を制定、職員にその浸透を図り、鉄道輸送に従事する者にとって輸送の安全確保がいかに重要であるかを理解する取り組みを進めております。言うまでもなく、安全の確保は鉄道事業者の使命であり、輸送事業に従事する者の重大な責務であります。このため、当局では高い安全意識を身に付け、安全は人が支えていることを将来にわたって確実に伝えるために、安全研修施設「輸送の生命館」を平成25年6月末に開設しました。

輸送の生命館では、

- ・長堀鶴見緑地線での重大インシデントやニュートラムの車止め衝突事故などの当局における事故やトラブルを教材に、これらの事故の原因や背景から教訓を学び、二度と同様の事故を繰り返さないことを決意する。
- ・今ある個々のルールや取扱いが何のためにあるのか、鉄道ではどのような仕組みで安全が担保されているのかなどを理解する。
- ・安全は人が支えていることを理解する。

ことを目的に体験型研修を実施し、それにより全職員の高い安全意識を維持・向上させることを目的としています。

過去の事故等を学ぶ

鉄道の安全確保の歴史は、過去の事故の痛みと教訓、それによる安全対策の積み重ねで成り立っていることを理解するとともに、鉄道の安全は保安装置のみではなく人が支えていること、誰一人他人事ではなく我がこととして事故を学ぶ必要があり、当局の三つの大きな事故を題材に再現映像、当時の関係者の生の声や事故に関係する実物等を用いて研修を実施。

○ニュートラム車止め衝突事故

平成5年10月5日：負傷者215名



衝突した車止め（実物）

○長堀鶴見緑地線重大インシデント

平成22年3月15日：影響人員57,000人



損傷させたポイント（実物）

○天六ガス爆発事故

昭和45年4月8日：死亡者79名、負傷者420名



事故現場の写真

館内概要図



基本動作や各種設備の取り扱いを学ぶ

過去にさまざまな事故やトラブルを経験し、地下鉄の施設や設備は、その経験をもとに改良を重ねてきた。しかし、これらの施設や設備がどれだけ整備されていても、その取扱い（操作）が適切に行われなければ、事故・トラブルを防ぐことはできない。

基本動作は、その操作を正確に実施するための手段である。

これまでの事故の原因の多くがヒューマンエラーであり、基本動作を徹底することで、事故・トラブルの未然防止につながる。

また、事故・災害の発生時に、各設備の異常時の取扱いを適切に行い、お客さまの救護を最優先に、二次災害の防止に努めることが、全職員の使命であることを映像や実際の設備を用いて研修を実施。



各種設備（実物）

メンテナンスの重要性を学ぶ

地下鉄のさまざまな施設や設備・装置を常に正常な状態に保ち、故障等の異常が発生しないようにすることが、メンテナンスの重要な役割である。トンネルの暗くて狭い空間の中で、いつもと違う小さな変化に気づくためには、常日頃から作業員に対し、そのための教育や訓練を行うことが重要となる。

そのためメンテナンスに携わる職員は必要な教育・訓練を受けた十分な知識・技術・技能を備えた要員であり、メンテナンスには適切な投資が必要である。

また、全ての職員が、地下鉄の駅や車両の変化に気づきを寄せ、見守る意識を持つことが、安全確保に全員参加での取り組みとなることについて、映像や実物を用いて研修を実施。



損傷した車輪（実物）



欠陥のある仕上げ材（実物）